

沖縄県緊急派遣SCチーム内の連携

－ *Unus pro omnibus, omnes pro uno* －

甲田 宗良

沖縄県臨床心理士会（被害者支援担当理事）

琉球大学大学院 医学研究科 精神病態医学講座

mkoda@med.u-ryukyu.ac.jp

□ 県士会の構成

- 2017年1月現在、約270名の会員があり、臨床心理士の資質と技能の向上および権益の保護充実を図るとともに、国民および沖縄県民の心の健康の保持向上に寄与することを目的に活動を行っている
- **被害者支援部会**、**避難者支援WG**を組織、**災害対策担当者**を配置している

□ 被災地（者）・避難者支援

- 東日本大震災および平成28年熊本地震の際には、医療、教育など多様なニーズに応えるために、多くの会員が被災地に支援に入った
- H23～27年度の5年間にわたって沖縄県東日本大震災支援協力会議の助成を受け、県内避難者支援のために様々な活動を展開している
- 毎年多くの会員が何らかの活動に携わり、本会の**被害者支援**、**災害支援**、**避難者支援**活動への関心は非常に高い

本発表のハイライト

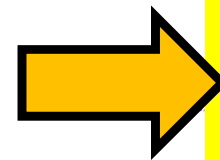
「災害支援における臨床心理士の役割と連携の在り方

ー平成 28 年熊本・大分地震における九州沖縄ブロックの取り組みからー」

各都道府県・指定都市教育委員会

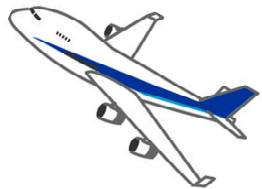
スクールカウンセラー等活用事業 御担当者 殿

熊本市・・・1チーム 9名
熊本県・・・2チーム 13名



どのように
リレーするか？

被災地へのスクールカウンセラーの派遣及び情報提供に関する協力依頼について



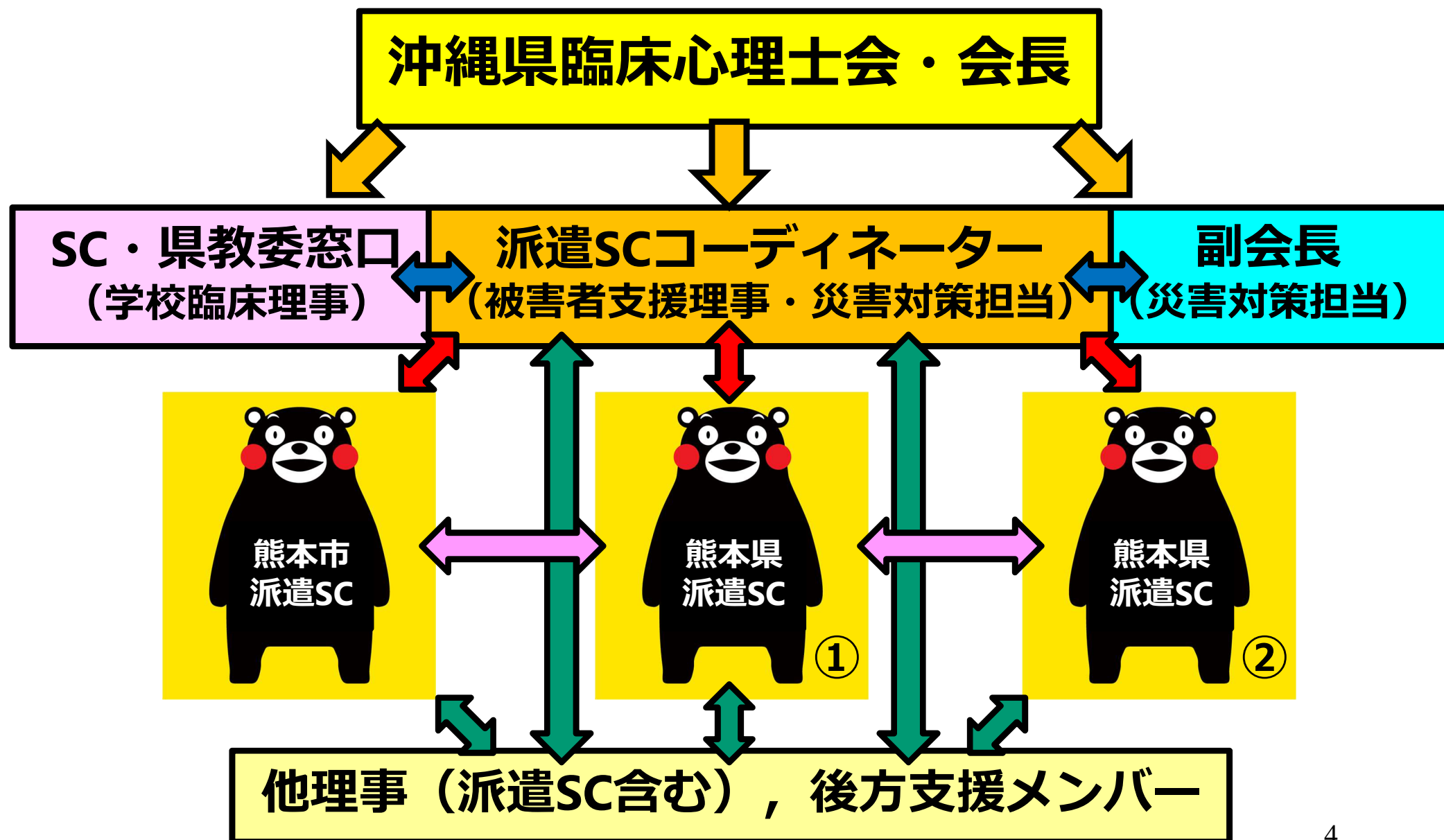
沖縄

いつもお世話になっております。

今回の熊本県熊本地方を震源とする地震に際し、被災地の児童生徒の心のケアに適切に対応するため、スクールカウンセラーの配置が喫緊の課題となっています。先日、文部科学省では日本臨床心理士会に対して、被災地へのスクールカウンセラー派遣について協力依頼を行ったところです。

今後、各都道府県・指定都市教育委員会におかれましては、被災地からの派遣要請があった場合には、それぞれの実情に応じ、各都道府県の臨床心理士会と連携の上、被災地へのスクールカウンセラーの派遣や関連情報の提供について可能な限り御協力いただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。なお、派遣希望者の照会は日本臨床心理士会より各都道府県臨床心理士会に行う予定としております。

組織図（チーム）づくり



事前研修の実施

平成 28 年熊本地震 被災地・者支援研修会

開催のお知らせ

〈会長からのメッセージ〉

平成 28 年熊本地震の発生から 2 週間。依然、震度 3～4 の余震が続く中、「心のケア」が重視され、臨床心理士等の専門家による支援が強く期待されています。現地での緊急・初期支援はもちろんのこと、全くの日常業務の中にいるとしても、私たちは、このことについて、踏まえるべきこと・やるべきことがたくさんあると思います。被災者、避難者、そして支援者、行政、精神保健福祉、教育、各分野の疲弊は蓄積されていきます。痛みと再生のプロセスはかなり長期に、また広範にわたることでしょう。今回の研修会では、そのような事態の現状を理解し、支援への気持ちを重ね、方針や見通しを共有することができればと思います。全ての有資格者が「支援実践者」ですので、可能な範囲で（全時間でなくても）、ぜひご参加ください。

日時：2015 年 5 月 15 日（日）14:00～17:00（13:30 受付開始）

参加費：無料

会場：沖縄国際大学 3 号館 303 教室（下記の地図を参照）

〒901-2701 沖縄県宜野湾市宜野湾二丁目 6 番 1 号

目標：平成 28 年熊本地震における被災者や避難者を支援するための具体的な知識・技術の習得

対象：①沖縄県臨床心理士会会員、②DPAT メンバーなど、震災支援に関わる専門職・関係者
③指定大学院大学院生（②と③は、当会会員の推薦が必要）

内容：①平成 28 年熊本地震の概要説明、②県士会の支援方針、③現地報告
④支援に必要な知識・技術・心がけの確認、⑤支援員の募集

申込：県士会 HP（<https://ws.formzu.net/fgen/S31424308/>）、あるいは、
申込書に必要事項を記入の上、メール or FAX にてお申し込みください。

事前研修の目的と内容

□ 雰囲気づくり

- できるだけ早く開催，できるだけ多く参加
- 「行く」人も「行かない（沖縄に居る）」人もチームの一員

□ 概要説明・会の方針の共有

- 正確な情報把握，現地最優先，方針を共有しトラブルを回避

□ 現地報告（DPAT，熊本県人として）

- 写真，地図，体験談を交えて五感を刺激

□ 支援のための知識・技術の習得・確認

- 支援のマナーを共有（**Do no harm, P+3L: PFAより**）

□ 派遣SC（チーム）メンバーの募集

- 一人では手を挙げづらくとも，みんな居ると心強い

不安の問題と解決法

□ 行動を抑制する (×)

→ 行動を活性化させる (○)

→ 不安を下げる必要性

→ 「分からない」を減らす

① どんなチーム？

→ 準備ミーティング (3回) , 決起会 (1回) を開催した

→ メーリングリスト, LINEグループ, Google Driveを活用した

② 現地の状況は？

→ 熊本県・市HP, 教育委員会, 九州沖縄ブロック内の連絡事項などの情報をコーディネーターおよび理事が集約・精選・配信した

メーリングリスト

LINEグループ

Google Drive

マイページHOME | プロフィール | 参加ML一覧 | はじめての方はこちら | 最新のお知らせはこちら | ヘルプセンター | ログイン

freeml. 完全無料 日本最大級のメーリングリストサービス
by GMO

@freeml.com

メーリングリストなら、**友達送る**のめいばいへ。

学校やサークル、友達同士の連絡用に、同じ趣味の仲間同士の情報交換や雑談用に、freemlなら誰でも簡単にメーリングリストの運営がスタートできます。

[はじめての方はこちら](#) [メーリングリストをさがす](#) [参加メーリングリストの確認/参加](#)

7月19日 Thursday
みんなのブログ みんなのフォト

マイページをお持ちでない方
マイページを作成すると、フォト共有や共有スケジュールなど、メーリングリストの全ての機能が利用できるようになります。 [詳しくはこちら](#)

より良いサービスにするために、皆さんのご意見、ご要望を聞かせてください。

パソコン・スマートフォン・携帯電話に対応。いつでもどこでも連絡ができます。

Available on the App Store
ANDROID APP ON Google play



不安の問題と解決法

□ 行動を抑制する (×)

→ 行動を活性化させる (○)

→ 不安を下げる必要性

→ 「分からない」を減らす

③ 何を持って行ったら良いの？

→ 災害時におけるこころのケア活動マニュアルを参照した

→ 東日本大震災時の派遣SC経験者に意見を求めた

→ キャンプ・サバイバルの知識・経験に長けた者に意見を求めた

④ どうやって行ったら良いの？

→ 各自の職場に依頼文書を送付した

→ 熊本県や九州出身および在住経験者に意見を求めた

災害時における こころのケア活動 マニュアル 【沖縄県版】

災害時におけるこころのケア 活動マニュアル

(第1版)

平成26年3月

沖 縄 県

1 子どもへの対応

(1) 子どものこころに起こりうる反応

子どもは自分のこころの状態を客観的に把握することが難しく、自分からこころのケアが必要であると言い出すことは困難です。また、災害に際して、子どもたちは、何が起きているのか理解しにくく、今後どうなるかの見通しも立てにくく、大人に比べてもストレスの度合いが高くなります。しかしこうした状況で自分の感情（不安や苦痛など）を言葉でうまく表現することが十分ではないため、赤ちゃん返りなど、こころや身体、行動上の様々な反応が起こります。

しかしその一方で、遊びを通して気持ちを発散させ、安定したこころの状態を取り戻すことができるのが、大人との大きな違いです。

(表) <子どもにあらわれやすい反応>

こころの反応	身体の反応
▶ おねしょ、指しゃぶり ▶ 甘えが強くなる ▶ わがままになる ▶ ぐずぐず言う ▶ 反抗的、乱暴になる ▶ 災害体験を遊びで繰り返す	▶ 食欲低下または過食 ▶ 寝つきが悪い。何度も目を覚ます ▶ 嫌な夢を見て、夜泣きする ▶ 何度もトイレに行く ▶ 吐き気、腹痛、頭痛、下痢 ▶ 喘息やアトピー等のアレルギー症状の悪化

児 童

- ・安全であることを何度も伝え、保証する
- ・災害やそれに伴う悪いことがおきたことは、あなたのせいではないと伝える
- ・保護者などの大切な大人から引き離さない
- ・できるだけいつも通りの生活習慣や時間を守る
- ・起こったできごとについては、簡潔に伝え、詳しく説明し過度に怖がらせない
- ・おびえたり、まとわりつくときには、そばにさせる
- ・赤ちゃん返りをしても、注意はせずに見守る
- ・時間を見つけ、遊んだり、リラックスしたりする機会を作る
- ・時間を作って向き合い、自分の気持ちを表現できる場を作る

不安の問題と解決法

□ 行動を抑制する (×)

→ 行動を活性化させる (○)

→ 不安を下げる必要性

→ 「分からない」を減らす

⑤ 何をしたら良いの？

→ 現地最優先（ニーズに沿う）, P+3L（PFA）

→ 県内SCおよび緊急支援経験者に意見を求めた

→ 東日本大震災時の派遣SC経験者に意見を求めた

→ 一緒に考えることが支援（ゲートキーパーの心得）

→ 個人 < チームで支援（郷治, 2011）

→ 現地, 後続の人に情報を引き継ぐ（平時よりいっそう）

➤ みんなで「一人のSC」

Psychological First Aid 【WHO版】

PFA とは

サイコロジカル・ファーストエイド（PFA）は、苦しんでいる人、支援が必要と思われる人に、同じ人間としての人道的な支援の仕方を示しています。

責任をもって PFA を行うとは、次のことを意味します。

1. 安全、尊厳、権利を尊重する
2. 相手の文化を考慮して、それに合わせて行動する
3. その他の緊急対応策を把握する
4. 自分自身のケアを行う



準備

- » 危機的な出来事について調べる
- » その場で利用できるサービスや支援を調べる
- » 安全と治安状況について調べる

1.2 PFA とは何か

Sphere (2011) や IASC (2007) によれば、サイコロジカル・ファーストエイド (Psychological First Aid: PFA) とは、苦しんでいる人、助けが必要かもしれない人に、同じ人間として行う、人道的、支持的な対応のことです。PFA には次のようなことが含まれます。

- » 実際に役立つケアや支援を提供する、ただし押し付けない
- » ニーズや心配事を確認する
- » 生きていく上での基本的ニーズ（食料、水、情報など）を満たす手助けをする
- » 話を聞く、ただし話すことを無理強いしない
- » 安心させ、心を落ち着けるように手助けする
- » その人が情報やサービス、社会的支援を得るための手助けをする
- » それ以上の危害を受けないように守る

3.3 PFA の活動原則——見る、聞く、つなぐ

PFA の三つの基本的な活動の原則は、「見る」「聞く」「つなぐ」です。これらの活動の原則は、災害状況の理解と安全な現地への入り方、人びとに寄り添いニーズを把握する方法、人びとの実際に役立つ支援や情報へのつなぎ方の指針になります（下記の表を参照）。

見る

- » 安全確認
- » 明らかに急を要する基本的ニーズがある人の確認
- » 深刻なストレス反応を示す人の確認



聞く

- » 支援が必要と思われる人びとに寄り添う
- » 必要なものや気がかりなことについてたずねる
- » 人びとに耳を傾け、気持ちを落ち着かせる手助けをする



つなぐ

- » 生きていく上での基本的なニーズが満たされ、サービスが受けられるよう手助けする
- » 自分で問題に対処できるよう手助けする
- » 情報を提供する
- » 人びとを大切な人や社会的支援と結びつける



こんにちは！ 沖縄県臨床心理士会です！

こんにちは！ 小学校のみなさん！

沖縄県臨床心理士会・学校支援カウンセラーです。

集合写真

7週間、よろしくお願いします！

このたびの震災では、みなさん大変なご苦労をされていることと思います。そのような中、子どもたちや先生方の学校生活を少しでもサポートするため、熊本県教育委員会の派遣で、こちらの学校に沖縄県の臨床心理士チームがおじゃまします。期間は6月6日（月）から7月22日（金）までの7週間、1週間ごとに7名の臨床心理士が交代で訪問し、継続してお手伝いさせていただきます。限られた時間ですが、子どもたちのこころのケアを中心に、できることは何でもさせていただきます。一緒に頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

顔写真

滞在期間： 6/6(月)～6/10(金)

氏名：

氏名・所属

普段の仕事：

臨床歴：

趣味・特技： ガーデニング。特に寄せ植え。

メッセージ：

普段は教育・医療・産業の分野で活動しています。今年度スクールカウンセラーとしては、小学校・高校に勤務しています。1週間という短い期間ですが、できることを精一杯させていただきます。どうぞよろしくお願いします。

顔写真

滞在期間： 6/13(月)～6/17(金)

氏名：

氏名・所属

普段の仕事：

臨床歴：

趣味・特技： 鼻笛、ひも付きお手玉、マイブームは手ごねパン作りです。

メッセージ：

よくおっちょこちょいと言われます。なは市（沖縄）出身。とくに好きな食べ物はバナナです。もやもやする気持ちに寄り添うことができればいいなと思います。こども達や保護者、先生方のお力に少しでもなれますように……どうぞよろしくお願いします。

顔写真

滞在期間： 6/20(月)～6/24(金)

氏名：

氏名・所属

普段の仕事：

臨床歴：

趣味・特技： ゲーム（RPG、推理系、ツムツム）、海外ドラマ（サスペンス系が好きです）

メッセージ：

こんにちは！沖縄の宮古島から来ました。熊本には修学旅行で一度訪れたことがあります。沖縄の中学生の定番です。とってもゆったりした雰囲気の良い街だった記憶があります。精一杯頑張りたいと思いますので、よろしくお願いします！

顔写真

滞在期間： 6/27(月)～7/1(金)

氏名：

氏名・所属

普段の仕事：

臨床歴：

趣味・特技： ヨガ、ジョギング（時々）、陶芸（初心者）

メッセージ：

職場で一緒に働いていた熊本出身のドクター（女医さん）が、実家のある熊本に戻って仕事をされると、4月に退職されました。戻られてから、熊本の状況が大変だと聞いています。私も何か力になればと思っています。

顔写真

滞在期間： 7/4(月)～7/8(金)

氏名：

氏名・所属

普段の仕事：

臨床歴：

趣味・特技： 星空観察（望遠鏡持ってます）

メッセージ：

熊本は、一度だけ研修で訪れた事があります。普段は健診の発達相談とか、親子教室、小学校のスクールカウンセラーをしています。微力ながら、みなさまのお手伝いをしますので、宜しくお願いします。

顔写真

滞在期間： 7/11(月)～7/15(金)

氏名：

氏名・所属

普段の仕事：

臨床歴：

趣味：

メッセージ：

沖縄県臨床心理士会
派遣スクールカウンセラー

顔写真

滞

氏

普

臨

趣

メ

こうだ

むねなが

甲田

宗良



派遣SCを支えるシステム

□ 現地最優先

→ 派遣SCの情報・決断を尊重

□ 一人にしない（即レス）

→ TEL, メーリングリスト, LINE, 夕食, DPATとの連携など

□ 任務以外のやり取り

→ 熊本の人, 土地, 食べ物の素晴らしさを知る（写真など）

→ 「今日の○○」的な報告

□ 帰沖後の振り返り（会）

→ 空港 or TELでの引き継ぎ（クールダウン+情報共有）

→ 派遣SCの行動を尊重, 情報共有, 詳細な引き継ぎ

→ 体調確認, 事後のフォロー

➤ みんなで「一人のSC」

まとめ

□ 派遣SCの声

- 「メーリス, LINEの後方支援が助かった」
- 「帰路に, メーリスで報告をしていた。短く書こうと思うが, 思いがあふれてきて, つい長くなった。でも, 吐き出すことが必要だったと思う」
- 「もっと市-県SCの連携を取れば良かった」
- 「引き継ぎで聞いたことを, 自分の週に活かせた」

□ 連携の在り方

- 個の能力・専門性 < チームの仕事
- 「個人の活躍」 < 「みんなで活躍」
- 現地に不要な気を遣わせない（丁寧に引き継ぎを行う）
- 沖縄チームとしての一貫性
(事前, 最中, 事後の知識, 情報を共有)

謝辞

- 一般社団法人日本臨床心理士会
- 公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会
- 九州沖縄ブロックの先生方
- 沖縄県臨床心理士会
理事会
被害者支援部会（災害対策WG）
熊本地震緊急派遣SCチームの皆様（とその職場・家族の皆様）
全ての会員の皆様

